

梅雨の候、貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

突然の手紙で失礼かと思いますが、どうしても貴社の皆様に知って頂きたく、ペンを執りました。

今から十年以上も前、一九九五年五四号に「理想をかかげた村をたずねて」という記事が「暮しの手帖」に載りました。当時河合谷中学校の一年生の担任だった私は、学級便りにこのことを載せ（拙いものですが同封しました）、河合谷の子供たちや保護者の方がたと共に歩むことの出来る喜びを味わったものです。その中学校はそれから一年後に閉校になり、子供たちは十キロ以上も離れた町の中学校に通うことになりました。それから十年たった今、今度は小学校を閉校にすると町は決定をしました。無論、河合谷地区の人は誰一人それに賛成する人はいりません。反対運動が起こっておりますが、それを無視して町では来年三月に閉校を決めております。校舎が古くなり、耐震の工事をするのにお金がかかるというのが一番の理由らしいのです。記事にあるように、河合谷小学校は「禁酒」で建てられた学校です。地区の人々も、心ある町の人々も「宝物」と思っております。私の父が詠んだ歌に

村あげて禁酒し建てし宝なる学び舎閉ずる合併の町

というものがあります。小さな村の人々がずっといとおしんできた

「宝物」をいとも簡単に切り捨ててしまうこの心の貧しさに私は憤りさえ感じています。

実は河合谷小学校は地区の児童が少なくなってきたので四年前に町の全ての地区から児童を受け入れることが可能な特認校の指定を受け、現在は他地区の児童が何人か学んでいます。大きな学校では人との関わりが苦手であった児童が、本当に元気に通学し、明るい笑顔が戻った。と喜んでいる親御さんを知っています。私が昨年まで勤務していた大規模校へ、河合谷小学校の卒業生が何人か入学してきましたが、お互いに助け合う優しい心の持った子供たちであることに気づかされておりました。

私は退職する昨年まで、いくつかの学校で勤務いたしました。どの学校よりも地区の人々に愛されている学校であることは肌で感じておりました。河合谷時代、私は中学校で教鞭をとっておりましたが、小中併設校で、音楽という教科の特殊性で小学校、中学校の全員を教えておりました。小学校一年生から中学校三年までの子供が仲良く学び、地区の人々との交流も盛んで、また、豊かな自然の中で一人ひとりを大切にしたい教育が出来るという、教育の原点がこの学校にはあったと思います。

確かに、過疎の村になってしまった事実があります。しかし、この地区のお母さんたちは日曜日毎に農産物のお店を開いたり、町でひとつの滝、「大滝」の前で流しそうめんを高い、何とか生き

残ろうと必死になっています。

この地区は加賀と能登と越中の分岐点でお祭りは独特のものがありました。しかし、中学校の閉校でますます過疎は進み、祭りの行事さえままならなくなったと聞きます。学校を無くするということは、文化が途絶えるということです。このままでは過疎をより一層進ませることになりかねません。その上、先人の熱い思いさえも切り捨ててしまいう町の姿勢に納得がいかないのです。

現在、私の住む津幡町では「町にお金が入る」という理由でポートピア（場外舟券売り場）設置計画が強行されようともしています。市民グループ（私もその一員です）を中心とした人々が町の有権者の過半数を超える反対署名を集め、計画の見直しを求めているにもかかわらず、町は耳を傾けようとはしません。そのようなときに「お金」がかかるという理由で「河合谷小学校の閉校」が突然決定されました。この悲しい、そして恥ずかしい事実を沢山の人に知ってもらいたい。何とかして、閉校を止めたい。どの思いがいっぱいでペンを走らせております。

そこで、誠に勝手なお願いかと思いますが、河合谷と津幡町の実情を取材して頂けないでしょうか。

前述のポートピアにしろ、「宝物」の小学校の閉校にしろ、お金が絡んでのことです。確かに「お金」は必要なものですが、「お金」

に換えられない大事なものがあるのではないでしようか。

人が生きるうえでとても大切な、芯のぶれない生き方をしたいと日頃から思っています。それは長年愛読した「暮しの手帖」に学んだことかもしれませんが。

小学校閉校の取材は「暮しの手帖」にそぐわないことかもしれない。そう思ったりもしますが、本当に大切なものは何なのか、という視点で見れば、沿っているのだとも思えます。市民グループのさまざまな活動の中で、沢山の素晴らしい人との出会いが私を支えてくれました。

この日本の片隅で小さな小学校が消えていく。それは、先人の想いを絶ってしまうという大きな過ちを犯そうとしていること、他ならないのです。どうか、この想いを受け止めていただきたくお願い申し上げます。

本当に一方的な思いで筆を執ったことをお許しください。時節柄、どうぞご自愛くださいませ。

かしこ

六月二八日

宗田真知子

「暮らしの手帖」の皆様

返伸

実情を知って頂くために参考資料を同封いたしました。